

小児科学の教育体制に関する研究

小宮山淳、岡田伸太郎、原田研介、奥野晃正、
青木継稔、中村肇

プライマリ・ケアの実践において、小児の診療に関する基本的な知識や技能の必要性が指摘されている。したがって、小児科学の教育体制が十分に整備されていることが強く望まれるところである。我が国における小児科学教育体制の一層の整備、充実を図る一助として、全国の大学医学部および医科大学における小児科学の卒前教育についてアンケート調査を行った。充実した小児科学教育のためには、多数の教員と多くの時間を要することが明らかとなった。

小児科学、小児科学教育、卒前教育、小児科学教育体制

【研究目的】

すべての臨床医にとってプライマリ・ケアの必要性が指摘され、その教育体制の充実が求められている。プライマリ・ケアの実践にあたって、とりわけ小児の診療に関する基本的な知識や技能の修得は不可欠であろう。したがって、その教育、指導の体制が十分に整備されていることが強く望まれる。

本研究は、我が国における小児科学教育体制の現状を調査し、その一層の充実のための一助にすることを目的とした。

【研究方法】

全国の大学医学部および医科大学における小児科学の卒前教育についてアンケート調査を行った。調査対象大学の内訳は、国・公立大42校、私立

大27校であった。

アンケート調査は、平成10年12月～同11年2月10日に行った。

【結果】

アンケートは調査期間内において、国・公立大42校、私立大27校のすべてから回収された。

1. 学生の入学定員分布

国・公立大では、60名が2校、80～95名が10校、100名が30校であった。一方、私立大では、80名～95名が4校、100名が21校、110～120名が2校となっていた。

2. 専門教育時間数

国・公立大、私立大ともに、4,001～4,500時間が最も多く、それぞれ10校ずつであった。なお、5,501時間以上が3校みられた。平均教育時間数

日本小児科学会教育委員会

Board of Education, Societas Paediatrica Japonica

は4,272時間となっていた。

3. 臨床実習について

1) 臨床実習の開始時期

早いところでは2年1学期から、最も遅いところは5年3学期となっていた。5年1学期が33校で最も多く、5年2学期が19校と続いていた。

2) 臨床実習の実施学年

2～6年を通して行うところが1校あったが、大多数は5年または5～6年となっていた。

3) 臨床実習期間

平均値では、国・公立大で42.6時間、私立大で43.7時間であった。

4. 小児科卒前教育について

1) 小児科学講義の全時間数

平均時間数では、国・公立大で54.1時間、私立大で79.9時間となっていた。

一般的には、講義より実習による教育が重視されてきているが、小児科学教育についてはその特殊性からまだ講義にも多くの時間がさかれていることが窺われた。

2) 臨床講義の実施の有無

実施の有無	国・公立大	私立大
有	25校	15校
無	17校	11校

3) 総合カリキュラムにおける小児科分担時間

国・公立大で36.8(3～80)時間、私立大で19.0(1.5～110.5)時間であり、大きなばらつきがみられた。

小児科学の独立した講義時間数とも関連するが、医学教育における小児科学教育の占める割合が高

いことが示された。

4) 小児科学の臨床実習の期間

期間(週)	校数
1	5
2	40
3	17
4	6
その他	2

多くの大学では全日制的臨床実習を行っており、多数の教員が多くの時間を費やしているものと思われた。

5) Tutorialsの実施

すでに実施または検討中のところが、国・公立大では20校、私立大では16校あり、小児科学教育に精力的に携わっていることが窺われた。

6) 臨床実習にかかわる教員数

国・公立大では5～20名、私立大では9～35名であり、充実した小児科学教育には多数のスタッフが必要であることが示された。

【考察】

今回のアンケート調査によって、充実した小児科学の卒前教育を行うためには、多くの教員の多大な努力が必要であることが明かとなった。さらに、卒後教育における小児科学の重要性は周知の事実である。

現在、卒後初期臨床研修の在り方が検討されているが、小児科研修は、とりわけ一般医ないし家庭医を目指す医師にとっては不可欠な要素の一つである。したがって、基本的な診療能力の涵養と

いう観点からも、小児科ローテーションが必要であり、優れた小児科指導医の養成と供給が緊急課題となってきた。

小児科学の卒前および卒後教育体制の整備、充実のために、小児科医はさらなる努力をすとも、社会の理解を得ていくことが大切であろう。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



プライマリ・ケアの実践において、小児の診療に関する基本的な知識や技能の必要性が指摘されている。したがって、小児科学の教育体制が十分に整備されていることが強く望まれるところである。我が国における小児科学教育体制の一層の整備、充実を図る一助として、全国の大学医学部および医科大学における小児科学の卒前教育についてアンケート調査を行った。充実した小児科学教育のためには、多数の教員と多くの時間を要することが明らかとなった。